

船員教育訓練機関（商船関係）の概要

資料3－参考資料

座 学

文科省所管

商船系大学(2)
【航:85名 機:75名】

商船高等専門学校(5)
【航:100名 機:100名】

独立行政法人海技教育機構

海技大学校
航海専攻・機関専攻【航:5名 機:5名】

海技大学校
航海専修・機関専修【航:5名 機:5名】
海上技術コース【航:10名 機:10名】

海上技術短期大学校(3)
【航・機:230名】
海上技術学校(4)
【航・機:120名】

海技大学校
6級航海専修【航:68名】(21年度)

合計 15校 818名

【海技教育機構の業務】

- 内航船員の最大の供給元として、安定的な船員の養成を行う。
- 実務教育として、技術教育訓練やキャリアアップ教育を実施する。
- 一般大学、高校等の卒業者を対象とする課程を拡充するとともに、新たな課程を設置するなど、船員不足への対応を図る。

外航

3級海技士
(航海・機関)

8校
370名

内航

3級海技士
(航海・機関)

4級海技士
(航海・機関)

8校
448名

6級海技士
(航海)

委託

独立行政法人航海訓練所

乗船実習

日本丸(ディーゼル・帆船)
総トン数 2,570トン
実習生定員 120名

海王丸(ディーゼル・帆船)
総トン数 2,556トン
実習生定員 108名

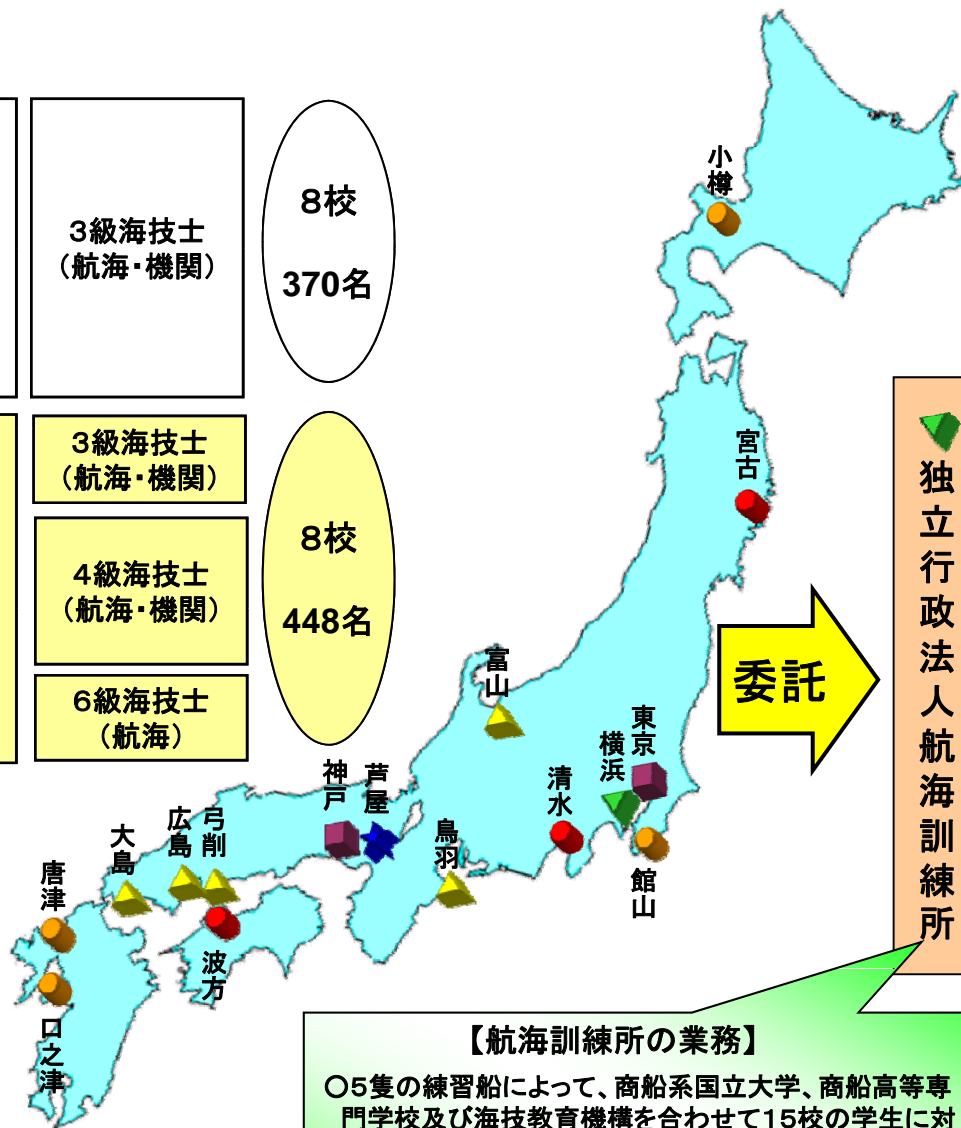
銀河丸(ディーゼル)
総トン数 6,185トン
実習生定員 180名

青雲丸(ディーゼル)
総トン数 5,890トン
実習生定員 180名

大成丸(タービン)
総トン数 5,886トン
実習生定員 140名

【航海訓練所の業務】

- 5隻の練習船によって、商船系国立大学、商船高等専門学校及び海技教育機構を合わせて15校の学生に対する航海訓練を効率的に実施。
- 社船を活用した教育訓練の複線化など、様々な改革を行いつつ、各船員教育機関から学生等を受け入れ、一元的に質の高い航海訓練を行う。



即戦力を備えた船員の養成に向けた内航用練習船の整備【特別枠】

予算額 450百万円(新規)

○ 目的

内航海運は、国民生活・経済で必要とされている物資の輸送を担っており(国内の産業基礎物資の8割)、それを支える優秀な船員(国際条約の基準を満たす有資格者)の養成を効率的・効果的に実施する。

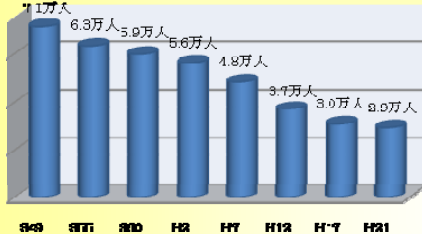
○ 内容

内航海運の安全で安定的な海上輸送を支えるため、即戦力を備えた新人船員の効果的な養成に向けた訓練体制の拡充に必要な練習船の整備を図る。

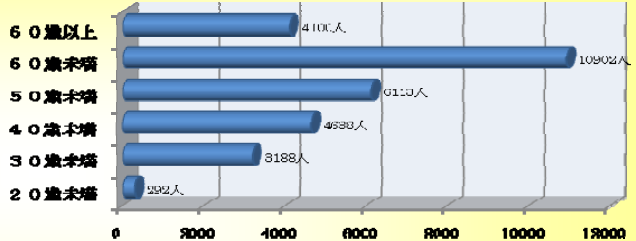
現 状

◇ 内航船員の高齢化・減少により、将来的に不足が深刻化

【内航船員数の推移】



【内航船員の年齢構成】



- ☆ 内航海運の運航実態に即した新人船員の効果的な養成が重要
- ☆ 大型練習船で、内航海運の運航実態に即した養成が困難
- ☆ 練習船「大成丸」(S56.3 竣工:船齢30年)は老朽化により修繕費が莫大であり、また、タービン船のため燃費が悪く、非効率

対 応 策

「規制改革推進のための3か年計画」(平成20年閣議決定)

・内航用船員教育を効率的に実施するため、大型タービン練習船を小型練習船へ平成23年度までに代替

「海洋基本計画」(平成20年閣議決定)

・高齢化により、将来的に不足する内航船員の養成・確保が急務
・質の高い船員を効率的に育成するために船員教育システムを再構築

「国土交通省成長戦略」(平成22年)

◎優秀な船員(海技者)の確保・育成のための基盤整備
◇即戦力を備えた新人船員の効果的な養成に向けた教育体制の拡充及び練習船隊の整備

老朽化した練習船大成丸を代替小型化・効率化し、即戦力を備えた新人船員の養成が急務

◇ 即戦力を備えた新人船員の養成と内航用練習船の導入

「大成丸代船建造調査委員会」(平成22年4月~6月:委員長 羽原敬二 関西大学教授)で中間とりまとめ

○ 内航海運の運航実態に即した訓練

- ・狭水道の航行実習
- ・頻繁な出入港作業実習
- ・内航用ディーゼル機関運転実習 等

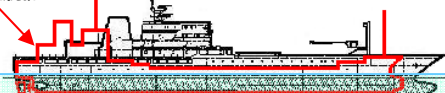
○ 内航海運の運航実態に即した練習船

- ・船体は極力小型化
- ・水深の浅い航路、港も対応可能
- ・タグボートなしでも出入港可能 等



練習船大成丸(全長125m 5,900トン)

1,000トン型内航船



内航用練習船(全長91m 3,000トン)

※ コスト削減により、運営合理化 ~特に、高効率で環境に優しいエンジンの導入により、燃料・潤滑油費を約4割カット~